

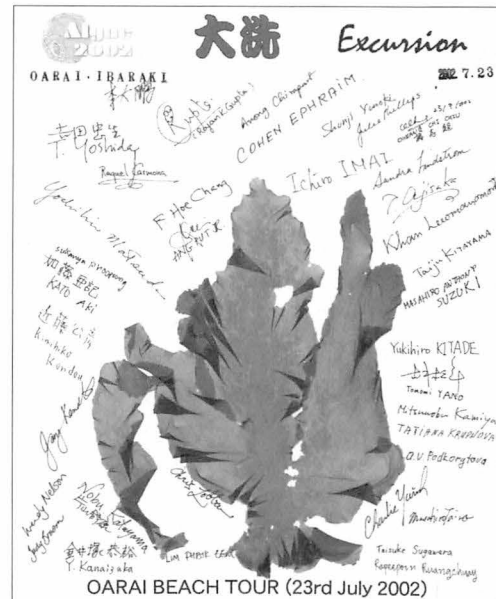
加藤亜記* : Algae 2002 エクスカーション参加記

2002年7月19～24日につくば市の産業技術総合研究所で開催されたAlgae 2002のエクスカーションは、7月23日に大洗海岸の潮間帯観察とアクアワールド大洗(茨城県大洗水族館)の見学との二本立てで行われました。このエクスカーションには日本人の参加者のほか、本大会が国際学会であることを反映して、多くの外国人研究者の方々が参加されました。23日は幸い晴天にも恵まれ、一行47人はバスで産業技術総合研究所を朝8時に出発し、大洗へと向かいました。車内では自己紹介のあと、カラオケの時間となり、北山さん(国立科学博物館)と女性のバスガイドさんが美声を披露すると、ほどなく大洗に到着しました。残念ながら大洗海岸は白いガスがたちこめ、海岸から太平洋を望むことは叶いませんでした。潮間帯観察の前に、ゲストに招かれた茨城の海藻研究家で知られる中庭正人さんが、このガスは気温より海水温の方が低いために発生することや、大洗は千島海流と日本海流の両方の影響を受けた海藻相であることを説明されました。各自海岸に散らばると、目当ての海藻を採ろうと胴長や水着(!)で海に入る人たちがいました。この日見られた海藻は、緑藻では、ウスバアオノリ、ナガアオサ、ホソジュズモ、褐藻では、アミグサ、アラメ、ヒジキ、アズマネジモク、紅藻では、イボツノマタ、ハリガネ、ヒザリメン、ユカリ、ベニヒバ、ユナ、ソゾノハナなどがありました。中庭さんは外国人の方には、種名リストの学名を指し示しながら熱心に海藻の名前を説明していました。潮間帯観察のあと、参加者が海藻のさく葉標本を作ることができるようバットや吸水紙などが用意しており、多くの参加者がさく葉標本作りに取り組んでいました。作った標本は本人の元へ郵送してもらえるなど細かく配慮されており、参加者にはとてもいい記念になったと思います。

次にアクアワールド大洗の見学に行きました。アクアワールド大洗は大洗水族館の老朽化に伴い新しく建設され、今年**の3月にオープンしたばかりの新しい水族館です。入り口を入ってすぐのところに横濱康繼先生が手がけられた「海藻の海」の水槽があり、大洗海岸の水面下の様子が再現されていました。このように身近であるのに、あまりなじみがない地元の自然を一番はじめに見せるよう工夫されている点がよいと思いました。さらに、「海の生き物科学館」のフロアでは、より理解を深めることができるよう、さまざまな生き物が生



ガスがかかる大洗海岸の参加者



活する生態系という観点から博物館的な展示がなされており、この中には海藻のコーナーもありました。館内見学はイルカショーで締めくくられ、心のなごむひとときを過ごすことが出来ました。

全体を振り返って残念だったことは、潮間帯観察も水族館見学も実質の時間が1時間程しかなかったため、十分には観察や見学をする余裕がなかったことです。片道で約1時間半かかる比較的長距離の移動であったことや、夕方からBanquetであったことから時間的に厳しいのは仕方のないことだったと思います。

最後に、終始ユーモアたっぷりに添乗員をつとめられた北山さん、水族館見学に際して最大限の便宜をはかっていただいたアクアワールド大洗の太田理香さんほか進行に関わった方々のおかげで楽しいエクスカーションになったと思います。

<参加者> 鯉坂哲朗, Aminina N., Judy Broom, Raquel Carmona, F. Hoe Chang, Cheang Chi Chiu, Anong Chirapart, Sirichart Chirapart, Lim Phaik Eem, Cohen Ephraim, Rajan K. Gupta, Hrafnhildur Hannesdottir, 今井一郎, 神谷允伸, 金井塚恭裕, 片山舒康, 加藤亜記, Gary Kendnile, 北出幸広, 北山太樹, 近藤 公, Krupnova T., Khan Lewmanomont, サンドラ・リンドストロム, Dapeng Li, Chris Lobban, 松田吉弘, 御園生 拓, Wendy Nelson, Julie Phillips, Podkorytova A.V., Sukanya Phooprang, Ang Put Jr., Triin Reitalu, Rapeporn Ruangchuay, Vanit Khem Saeng, Chatraporn Satirawatkul, Hu Songainan, 菅原大将, 鈴木雅大, 平 昌宏, 矢野友美, Charles Yarish, 吉田忠生, 吉崎 誠, 柚木俊二, Cohen Ziva (姓のアルファベット順。表記は受付時にご本人が署名されたままで統一していない)

(*現在の所属: 琉球大理工。 **2002年に執筆。)

編集部註) 平成14年のAlgae 2002で加藤亜記氏(当時、北大理)に執筆を依頼したのですが、編集部の手違いで掲載にいたらなかったものです。この場をお借りしてあらためてお詫びいたします。(編)